NIE実践報告

1．タイトル：**わたしたちが作ったビオパークを新聞で知らせよう**

2．学校名

沖縄県那覇市立銘苅小学校

3．実践者名（代表者名）

有銘初美

4．学年

第3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

総合的な学習の時間・国語　37人

6．単元（本時の学習課題）名

「わたしたちのビオパーク作り」（環境）

7．目標(狙い)

総合的な学習の時間でのいろいろな活動の中から、書く場面をはっきりさせて、そのときの様子が伝わるように新聞に書く。

8．評価の視点

出前記者講座で教えてもらった、記事の書き方（いつ、どこで、誰が、何を、なぜ、どのようにという5W1H）に基づいて記事が書けたか。記事を書くのに必要なメモを収集して活用できたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数

（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「ビオトープ作り」をしよう［総合的な学習の時間：14時間］
「中心をはっきりさせて書こう」（教科書教材：教育出版）［国語：6時間］

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①校内を回り、ビオトープの現状を知る（フィールドワーク）（1時間）
②学習会や学級・学年ワークショップを開いて、どのようなビオトープをつくるのかを決める（4時間）
③ビオトープ作りに向けて、学級・学年や親子作業などの活動をする（9時間）
④ビオトープ作りのことを新聞にまとめることを知らせ学習の計画を立てる（1時間）
⑤出前記者を招待して、新聞の作り方や記事の書き方を学ぶ（1時間）
⑥つかむ・ふれる・調べる・まとめるの4つの段階の内容を4つのグループで分担し、出前記者のアドバイスを受けながら記事に書く（2時間）
⑦出来上がった記事に小見出しや大見出しをつけて速報形式に新聞に仕上げ、移動編集車で印刷して子どもの手に渡す（2時間）
（留意点）
・出前記者に教えていただいた5W1Hや感情を交えず見たままを伝える、見出しは10文字以内という、記事を書くときに注意することを繰り返し思い起こさせて書かせる。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

自分の内面を文字にして著す作文を書く時には、どう書いていいか分からないという子も、事象を5W1Hで書く新聞作りの活動には笑顔で参加していた。出前記者が、小学校のころから日記を書き続けたことが今の仕事に役立ったという話をした。学校でやっていることが社会人になってもつながっていることが伝わった。

12．成果と課題

・自分たちが書いた記事が新聞に報道されたのを機に、子どもたちは、書くことの喜びを知り、事実をよりよく伝えるために言葉を選ぶ必要性に気付いた。
・子ども自らが新聞に手を伸ばすように、小さな継続活動の工夫をしていきたい。